平成27年度愛知県大会

8月6日目　1校目　滝高校　上演作品

# みいつけた！

瀧　源作　作

# CAST

ユウマ
ナオ

父
母

幼兄
幼ナオ

ファミリーホームに過去にいた児童
まさ（まさかず）
まほ（もっぴー）
トリノ
ひろ（ひろあき）
みか

ファミリーホームに現在いる児童
ゆうき
ひな
秀（しゅうすけ）
なのか
しょう（しょうや）

ユウマの友人
堀部
誠太郎
土橋
アイ
アヤノ
ウタノ

職員（木澤）
ケースワーカー（夫馬）
案内人

ウィーリー

## ■OP

軽快なＢＧＭと共に幕が開くと、大勢の似たような服装の群衆の中央で、
ウィーリーが語り出す

ウィー　皆さんはじめまして。僕が誰だかわかりますか？
この赤と白のシャツとステッキ。
ジーンズに包まれた長い足と軽やかなステップ。
そうです、世界を旅するウィーリーです。
皆さん僕を探してくれたことはありますか？　ありますよね？
ほらページ一面にびっしりと、たっくさん人がいる中から僕を見つけてくれたこと、あるでしょ？
あーこんなところにいたのかーって嬉しくなってくれたでしょ？
でもね、それね、僕も嬉しいんですよ。
こう、ね。みつけてくれるかなーまだかなー、いやっそっちのページにはいないんですよ、
こっちこっちこっちー、・・・ああ、そっちじゃない、ここ、ここ！
ここにいるんです！気付いてクダサーイ！　・・・ってね。
さァ、がんばって僕をみつけてみよう！

ウィーリーが群衆にまぎれる。ストップモーション
幼児たちが数人駆け込んできて、群衆を蹴散らしていく。
そのうちの一人、大人しそうな子（幼ナオ）がウィーリーの絵本を開いて持っている。
ストップモーションの群衆は無抵抗にいじられる。

## ■1場

児童　うわーい
まほ　私こっちから探すー。
みか　じゃあ私こっちからー。
まさ　オレが一番に見つけちゃうもんねー。
みか　ちがうよー。私が一番だもん。
まさ　勝負だ！！
みか　負けないぞー。
ひろ　うわぁ・・・　この人すっごくキレイだなぁ。
トリノ　本当だ・・・。めっちゃキレイー。
まほ　もう、ひろあき。ちゃんと探してー！！
ひろ　ちゃんと探してるよー。
まさ　みつかんないなー。どこだろうー。
まほ　あ！
児童　なになに？

まほ　五百円玉ー！
まさ　もう～まほ～！　ちゃんと探して～（まほのまねをして）
まほ　まねしないでよー。
まさ　まねしてないよ？
トリノ　全然見つからないなー
まさ　どこにもいないよねー
ひろ　ねー。
みか　ナオちゃんちょっとどいてー。見えないよー。
ナオ　あ、うん・・・　ごめん
まほ　おっかしいなー。お兄ちゃんと探すときはスグ見つかるのにねー。
まさ　どこにいるんだろう？
ひろ

幼兄が駆け込んでくる

幼兄　こらー　僕の本返せ！
ひろ　あ、お兄ちゃんだ！
みか　にげろー！
児童　にげろーあはははは
幼兄　こらー！　まて～！
ひろ　お兄ちゃんなんかに捕まるもんかー！
幼兄　なんだと！
まさ　お兄ちゃん、こっちだよ～！
幼兄　ああ、もう！
まほ　ほ～ら、ナオちゃんもにげなきゃ
幼ナオ　う、うん・・・
幼兄　逃げるな！　ウィーリー返せよ！　勝手に持っていくなって言ったじゃないか！
ひろ　いいじゃんかー
トリノ　お兄ちゃんだけずーるーい
まさ　お兄ちゃん、おもちゃ持ってるじゃんかー
幼兄　おまえらも持ってるだろ？
ひろ　持ってないもーん
幼兄　嘘つけ！　持ってるくせに！
まほ　あれはみんなのものだもん。
ひろ　僕のじゃないもん。
幼兄　それで遊べよ！
まさ　ちょっと借りただけなのに（大泣）
幼兄　ああ、ごめん・・・
まさ　じゃあ、貸してくれる？
幼兄　うん・・・。

児童　やった～！
まさ　嘘泣き、成功～！
児童　わ～い！！
幼兄　な、やっぱりだめ！
みか　いいって自分でいったのに～！
まほ　ね～。
ひろ　やっぱ、お兄ちゃんってずるい！
トリノ　せこ～い！
まさ　うんこ～！
まほ　あ～、まさかず君、今、悪口言った！
ひろ　わ～、いけないんだ～！
みか　そーだそーだ
トリノ　お父さんに言いつけてやろ～！
ひろ　悪口言っちゃだめなんだよ～！
児童　そ～だそ～だ！
まさ　ごめん。さっきのなし！
みか　じゃあ許す！
幼ナオ　ねえ、お兄ちゃんもゴメンすれば返してもらえるんじゃない？
幼兄　なんで僕が謝らなきゃいけないんだよ！
児童　あやまれ～！

とか言いながら、児童たちはウィーリーの本をパスしあう。幼ナオのところに本が来る。

幼兄　もー、みんなして僕をバカにしてー！　いいから、か・え・せ！
幼ナオ　あ・・・ふえええ・・・（泣き出す）
幼兄　えっ
まさ　あー泣かしたー
みか　お兄ちゃんがナオのこと泣かしたーっ
児童　悪いんだー悪いんだー
幼兄　泣かしてなーい！　僕のせいじゃなーいーっ！
トリノ　かわいそうだよねー
児童　ねー
まほ　ナオちゃんがウィーリーを探すのやってみたいって言ったんだもん。
まさ　だから、みんなで手伝ってあげたんだよ。
ひろ　お兄ちゃんはいじわるだよねー
みか　いじわるな人は嫌われるんだよー
幼兄　いじわるじゃない！
トリノ　だって、お兄ちゃん独り占めしようとするんだもん
幼兄　僕のだから独り占めじゃない！

ひろ　それに、お兄ちゃん遊んでくれないし
まさ　そうそウィー兄ちゃんつまんない！
幼兄　そ、それは、学校があるから仕方ないだろ
みか　私たちだって幼稚園行ってるもん！
ひろ　お兄ちゃんが悪いんだからね！
児童　ねーっ
幼兄　なんで僕のせいなんだよう

## ■2場

母が登場。

母　はいはい、みんなおやつよ・・・って、どうしたの？
幼兄　お母さん
母　ナオも泣いてるし。ユウマ、頼んだでしょ、みんなをちゃんとみててって。
幼兄　そんなの知らない。ぼくは木澤のおじさんと遊んでたんだ
母　もう。
ひろ　おやつ、食べていい？
母　いいわよ。手を洗ってからね。
児童　はーい！
母　ほら、ユウマも。
幼兄　はーい。
母　もう・・・。木澤さん！
木澤　（登場して）はいはい、なんですか
母　ユウマと一緒に子供たちの相手をお願いしてたじゃないですか
木澤　いや、ユウマくんがね、あんまり元気がなかったから私と庭にいたんですよ
母　子供たちから目を離されては困りますよー。
木澤　でもユウマくんもね・・・。
母　だからって、子ども達をほっとく理由にはなりません。
木澤　いやはや、面目ない。

児童、円卓を囲む。

児童　いっただっきま～す！

母　はい。どうぞ。
木澤　あれ？ナオちゃん。どうしたの？　目が赤いじゃないか。
まさ　ユウマ兄ちゃんがいじめたんだよー
幼兄　いじめてない！　僕の本を勝手に持っていったんだ！

まほ　ちょっと借りただけじゃない
児童　ねー
母　ユウマ、お兄ちゃんなんだから、本くらい貸してあげなさい
児童　そーだーそーだー
幼兄　でも、ウィーリーは僕の大事な本なのに
母　ナオちゃんは妹なんだから、優しくしてあげて。ね？
幼兄　でも・・・せっかくお父さんに買ってもらったのに・・・
母　はいはい、しょうがないわね。じゃ、ウィーリーはしまっておいて。おやつ食べたら、みんなで木澤さんに遊んでもらいなさい
木澤　じゃあ、みんな。おじさんがお話してあげようかね
みか　やーだー。おじさんのお話つまんないもーん
トリノ　お話むずかしいもんねー
ひろ　だからウィーリーの本かしてよう
木澤　あっはっは、参ったなあ。
母　笑い事じゃありませんよう、もう
木澤　いや、お母さん。あまり気を張ってもしょうがないですよ。家族はながい付き合いになるんですから、気を抜くところは抜かないとはあ。施設で世話をするのとは違って、難しいですね
母　いや、でも他の家よりもずっと落ち着いてますよ。
木澤　もっと荒れ放題の家もありますから、自信を持ってください
母　ありがとうございます
木澤　それよりも、ユウマくんのこと、気にしてあげてください。急に家族が増えたら、子供にはやっぱりストレスですからね。
母　はい。でもユウマはがんばってくれています。
木澤　いい子だからかえって無理させないのが大事なんですよ。ユウマくん、また遊ぼうな
幼兄　うん

父も帰宅して登場

父　ただいま。どうしたんだ？　今日はずいぶん散らかってるなあ。
トリノ　お父さん！
児童　おかえりなさーい！
父　ただいま。あれ？　今日もナオちゃん泣いてたのか。誰かとケンカしたのか？
幼兄　ケンカじゃないよ。僕のウィーリーを勝手に持って行ったから叱ったら泣いちゃったんだ
父　ウィーリー？
木澤　お話を聞いてあげてください。じゃあお父さんも帰ってきたことだし、今日は私はこれで。
父　おつかれさまでした。また明日、お願いします
母　ありがとうございました
木澤　はいはい、では失礼しますよ。みんなばいばい。（去る）
児童　ばいばーい

母　木澤さん、もっとしっかり子供を見てくれないかしら
父　いや、あれでも僕の大先輩だからね。考えがあるんだろう。で、なんだったんだ
母　前にユウマに買ってあげた「ウィーリーを探せ」の本ですよ。みんなが勝手に出してきたみたい
父　ああ、あれか。いいじゃないか本くらい。ユウマ、独り占めはよくないぞ
幼兄　ただの本じゃないよ。これは僕だけの本だよ！
ひろ　お兄ちゃんが貸してくれないの
トリノ　ナオが借りたら怒っちゃったの
まほ　私たちもやりたいのにね
児童　ねー
母　みんなはお片付けして、あっちでお昼寝しましょ。
児童　はーい
母　あなた、ユウマをお願いね

母が妹たちを連れて去る。

父　わかった。・・・ユウマ。いいか、弟や妹ができたらユウマがお兄ちゃんになって、
しっかり面倒を見るって約束しただろう。家族が増えたら、いろいろ大変になるけど大丈夫か、
ってお父さんが聞いた時、大丈夫だってお前が言ってくれたじゃないか。
幼兄　こんなにたくさん弟や妹ができるなんて思ってなかったもん
みんなわがままだし、うるさいし
父　ははは、お父さんもお母さんも仕事に行っちゃうと一人で寂しいって言ってたじゃないか
幼兄　そうだけど。
父　弟や妹ができて、賑やかになって、お父さんもお母さんも家にいるようになる方がいいって、
ユウマが言ってくれたから決めたんだよ。
幼兄　そうだけどー！
ユウマ、大変なのはよくわかるけどな。頑張ってお兄ちゃんになってくれ。
お前がお手本になって、しっかりしてれば、みんないい子にしてついてきてくれるよ。
幼兄　わかったよ・・・ねえ、お父さん。一緒にウィーリー探してよ。
まだ探してないページがあるんだよ
父　わかった、・・・でももう少しお仕事があるんだ。見つけたら教えてくれないか。
幼兄　・・・わかった。
父　じゃ、またあとでな。（去る）
幼兄　・・・ちぇー。（見送り、しばらくページをぱらぱらとめくっているが、本を投げ出す。）

ウィーリー、こけて転がり出る。

## ■3場

ウィー　あいたっ
幼兄　え
ウィー　本は大事に扱わなきゃダメだろウィー父さんに買ってもらったんだろう
幼兄　あ、うん。ごめんなさい
ウィー　わかればいいんだ。お父さんとお母さんの言うことをしっかり聞いて、自分が悪い時には素直に謝る。それができれば君はきっと素敵な男の子になるだろう！　・・・僕みたいにナ
幼兄　ウィーリー？　ウィーリーが喋ってるの
ウィー　そうさ！　世界を旅する自由のヒーロー、ウィーリーだよ。僕みたいになりたいだろう
幼兄　本当？　僕、ウィーリーになれるかな
ウィー　なれるとも！　みんなが僕を追いかける、世界を旅する人気者、ウィーリーにね！
幼兄　すごいや。ねえ、ウィーリーになったら、みんな僕のことちゃんと見てくれるかな
ウィー　もっちろーん。みんな僕のことを探さずにはいられないからね
幼兄　妹や弟も、僕の言うこと聞いてくれるようになる？
ウィー　その通り！　ウィーリーはみんなの人気者さ！
幼兄　わかった、じゃあ僕もウィーリーみたいになる！
ウィー　その調子だ！　さあ、新しいページに挑戦だ！　いくぞ！
幼兄　おう！
幼兄　・・・あ、だめだった
ウィー　なんでだよお
幼兄　もう最後のページしか残ってないんだ。お父さんと一緒に探すようにとっておかないと。
ウィー　なかなか一緒に探してくれないんだね。
幼兄　他の子の相手ばっかりしてて、僕と遊んでくれないんだよ。
幼ナオ　そうかい・・・じゃ、もう探し終わったページで、もう一回やろう。かくれんぼだ！
幼兄　わかった！

幼ナオ、おずおずと現れる。手にお絵かきの道具を持っている。

幼ナオ　あの、・・・おにいちゃん。
幼兄　あ、えっと、ナオちゃん。なに
幼ナオ　あの・・・その・・・
幼兄　どうしたの？　他のみんなは？
幼ナオ　みんなで鬼ごっこしてる、けど、私は邪魔だから。お兄ちゃんに遊んでもらえって。お絵かきの道具持ってきたから
幼兄　ええ・・・
幼ナオ　だめなら、いいの。私一人でお絵かきしてるから
幼兄　いや～。そういうわけじゃ・・・。
ウィー　ほらほら、一人前のウィーリーになる第一歩だ。お兄ちゃんらしく妹と遊んであげなさい

幼兄　わかったよ。しかたがないなあ。
ナオちゃん、一緒にウィーリーを探そう。やってみたかったんだろう
幼ナオ　いいの
幼兄　うん、いいよ。
幼ナオ　ありがとう
ウィー　そうそう。それでいいんだ。でも本は大事にするんだよ
幼兄　ほら、本は大事にするんだよ
幼ナオ　わかった
幼兄　じゃあこのページで。（開く）
ウ・幼兄　さあ、どこにいるかな。ウィーリーはどーこだ！

群衆が再びぞろぞろと動く。ウィーリーは紛れていく

幼ナオ　ええと、ええと、（探しまわる）わからないよ。
お兄ちゃん、どこにいるの（群衆の中で見失っている）
幼兄　あ、いた。みつけた。
幼ナオ　どこ？　どこにいるのー？
幼兄　えへへ、こっちのページだよ。
幼ナオ　こっちの方？　どこ？
幼兄　がんばって自分でみつけてみな。みつけたらごほうびに僕のおやつをわけてあげるよ。
幼ナオ　がんばる。
幼兄　じゃ、とってくるから。さがしててー！（本を渡して去る）
幼ナオ　どこだろう・・・あ。えへへ、みつけた。おにいちゃん、みつけたー！
ウィーリーみつけたよー！　ねえ、おにいちゃん？

幼ナオが目を離した隙に、ウィーリーがちょっと移動して隠れてしまう。

幼ナオ　あれ、どこにいたんだっけ。（再びみつける）いた！
今度は忘れないように・・・（お絵かきの道具からクレヨンを取り出す）
ウィー　え、えっとちょっとまってまって、それはまずい
幼ナオ　えい！
ウィー　ぐあああああ！

幼ナオが本に丸しるしをつけると同時に、ウィーリーはフラフープ状のしるしを身に付ける。　ユウマがおやつを手にして戻ってくる

幼兄　みつかった？
幼ナオ　うん！　ほら、ここ！（見せる）
幼兄　（おやつを投げ捨てて）何するんだ！

幼ナオ　えっ
幼兄　しるしなんかつけたら、もう探せなくなっちゃうじゃないか！ばか！
もう遊んでなんかあげないからな！　絶対に何も貸してあげない！
幼ナオ　ごめんなさい、ごめんなさい！　あの、お兄ちゃんに見せたくて、でもウィーリーいなくなっちゃって、
それで、いなくなったらヤだと思って・・・
幼兄　そんなの知らないよ！　僕の本も、父さんも母さんも、みいんなお前たちが僕から取っていっちゃうんだ！　元に戻せよ！
幼ナオ　できないよう
幼兄　ウィーリー返せよ！　お前なんてウチから出て行けよ！

騒ぎを聞きつけて両親出てくる

父　ユウマ！　なんてこと言うんだ！

幼ナオが走って出ていこうとし、母に抱きとめられる

幼兄　お父さんがそんな子たち連れてくるからだ！僕はもう嫌だ！

しるしをつけられたウィーリーが無駄に悲壮感を漂わせながら顔を上げる。

ウィー　ユウマくん・・・
幼兄　ウィーリー！
ウィー　僕はもうだめだ・・・しるしをつけられて、隠れることができなくなってしまった・・・僕は・・・
もう君と遊んであげられない・・・さらばだ、ユウマくん。僕がいなくなったら・・・ユウマ君が立派なウィーリーになってくれ・・・がくり
幼兄　ウィーリーッ！

父　ユウマ、ナオにしっかり謝るんだ。お前は今、言っちゃいけないことを言った。
ユウマだってこの家を出て行けってお父さんに言われたら傷つくだろう。
家族にそんなことは言ってはダメだ
幼兄　本当の家族じゃないのに（ぼそりと。周りには聞こえない）
ウィー　（むくりと起き上がる）ほら。悪いことをしたときには、お父さんとお母さんにしっかり謝る。
約束しただろう
幼兄　ウィーリー？　死んだんじゃなかったの
ウィー　ふふふふふ、ウィーリーは不死身なんだよ。僕を探してくれる人がいる限り何度でも甦る。
さあ、謝るんだ。お兄ちゃんの務めだよ
幼兄　・・・うん。わかった。・・・ごめんなさい。
母　ほら、ナオも

ナオ、黙って逃げてしまう。

母　　ナオ！

ストップモーション。　ウィーリーの語りの中、場面転換。大勢の人が行き来する。
群衆は場面転換に参加しつつ、移動が終わったら再びストップモーション。
幼兄の後ろにユウマ、幼ナオの後ろにナオが立つ。

## ■4場

ウィー　やー、まいったまいった。子供ってのは手加減がなくて困りますねえ。あ、これですか？（しるしを外して捨てる）平気ですよ平気。ユウマくんががんばって拭き取ってくれましたからね！
いい子でしょう、ユウマくん。いやあ彼の家に来られた僕は幸せだなあ。・・・と

まさ　　じゃあねー、ウィーリー、ばいばーい
トリノ　元気でねー
みか　　遊んでくれてありがとー
ひろ　　さよならー、私のこと忘れないでねー
まほ　　手紙書くからねー

過去の児童達、去って行く。

ウィー　あ、みんなも元気でねー。ばいばーい。
ふふふ、もうひとつ、この家のいいところはですね、僕を探し飽きた子は家を出て行って、
新しい子が次々来て、ずーっと僕を探して遊んでくれるんですよね。
いやーいろんな子がいましたね、すぐに帰っていく子もいれば、何年も過ごす子もいて。
でもね・・・、

幼ナ・ナ　お兄ちゃん

ウィー　僕にしるしをつけてくれやがったナオちゃんは、あれから十年もたったのに
まだウチにいるんですよ　ね、くそっ。

幼兄・ユ　ん？　なに？

ウィー　そしてもちろん、ユウマくんも、ね。

## ■5場

児童が駆け込んでくる。

児童　ぅわーい
ひな　私こっちから探す
秀　僕はこっちからー！
なのか　これは！
しょう　ちがう！
なのか　こいつは！
秀　ちがうー！メガネかけてないー
ひな　男じゃないー
ゆうき　いた、ここにいた！ウィーリー見つけたー
しょう　そいつズボンはいてないー

ウィーリーを見落として見つけることができない。

なのか　もーわかんないよー
しょう　つまんなーい
秀　どこにもいないよねー
ひな　ねー

ウィーリーが現れ、高笑い。

ウィー　あはははは、そんなところを探してもみつからないぞー
しょう　ええ、どこにいるのー？
ウィー　こっちだよこっちー。けなっしーの近くをさがしてみなー
秀　けなっしー、あ、こいつのこと？
ひな　けなっしーは分かったけど・・・あ、いた！お兄ちゃん、いたよ、ウィーリーがいた！

児童達、よってたかってウィーリーを捕獲し、押さえ込む。ユウマ、登場。

ユウマ　みつかったかー？
ゆうき　うん、ほら見て！　ここ、ここ！
ユウマ　よしよし、探すのうまくなったじゃないか
ユウマ　でもだめだぞ、本は大事にしなきゃだめなんだからな
児童　はぁい（ウィーリーを解放する）
ウィー　いやーまいったまいった。すぐに見つかっちゃったなー
なのか　ねえねえ、次のページ、次のページ！

ユウマ　一遍に進めたらすぐに終わっちゃうだろ。
ウィー　ウィーリーは一日一ページ。お兄ちゃんとの約束だ！
児童　ええー
ゆうき　もっとやりたーいー
ユウマ　だーめ。ウィーリーはおしまい。いい子で言うこと聞いてたら、また遊んでやるからな
しょう　なんだよーお兄ちゃん夏休みなんだろー
秀　ずっと家にいるんだから遊んでよ～
ユウマ　そんなわけにいかないよ。俺だって勉強あるんだよ。
ひな　だってさ、退屈だし～！
ゆうき　父さんも母さんも遊んでくれないし
なのか　どこも連れてってくれないしー
ユウマ　外で遊んでこい、外で
しょう　暑いもーん

ナオ　お兄ちゃん
ユウマ　どうした、ナオ
ナオ　あのね、私が皆の相手しようか。かわるよ。
ユウマ　そうか？
ウィー　いいよ、お前じゃ面倒見切れないだろ
ナオ　私でもできるよ
ユウマ　でもなあ
ウィー　任せておけって
ゆうき　お兄ちゃんのほうがいいー
しょう　そうだよー、お姉ちゃんじゃつまんないもーん
ひな　今日はお兄ちゃんと、遊びたいの！
ナオ　みんな、少しはお兄ちゃんのことを考えて・・・
ウィー　そうだろうそうだろう、じゃあ遊ぼうかみんな、なにをしようかな、
やっぱりかくれんぼかな！
ユウマ　しょうがないな、つきあってやるよ
児童全　やった！
ゆうき　じゃあ、向こうでかくれんぼしようよ。
ひな　あっちにする？　こっちにする？
児童　ん～。　あっち～！

別々の方向へ走り出す児童達。はける。

## ■6場

夫馬（児童福祉のケースワーカー）が訪れる

夫馬　こんにちは～
ユウマ　あ、夫馬さん。
夫馬　あ、ユウマ君こんにちは。お父さんたちいる？
ユウマ　今日は二人とも施設の方に行ってます。
夫馬　木澤さんもいないの？
ユウマ　木澤さんには買い物に行ってもらってます。
夫馬　そっかー、困ったなあ。じゃあ、伝言書いておこっかな？
ユウマ　僕でよければ聞いておきますよ
夫馬　あ、それじゃお願いしちゃってもいいかな？
ユウマ　はい。
夫馬　助金申請の書類ができたから、お父さん達に渡してくれる？
ユウマ　わかりました。お預かりします
夫馬　お願いね。それにしても、ユウマくんしっかりしてるねえ。
今もみんなと遊んであげてたんでしょ？
今どきなかなかいないわよー、そんなお兄ちゃん。
ユウマ　十年もここで長男をやってますからね。ひとりっこだったのに
夫馬　ふふふ、もうベテランだねえ。
ユウマ　そんなことないですよ
夫馬　やっぱりユウマ君も、お父さんの後を継いでこういう道に進むのかな
ユウマ　まだ決めてないです。でも、興味はあります
夫馬　いやー楽しみだねえ。

木澤と母が奥から登場。

木澤　だめですよ、そんなふうに将来を決めつけるのはよくない
夫馬　あら、木澤さん
ユウマ　おかえりなさい。母さんも、おかえり
母　ただいまー。そこで木澤さんと一緒になってね。夫馬さん？　待たせてごめんなさいね。
夫馬　いえいえ、ユウマくんと話してましたから。これ、言ってた書類です。それにしても、
しっかりした息子さんでいいですねー
母　ウチのホームはユウマのおかげでもってますからね。
木澤　いやあ、私では頼りにならなくてね。
母　あ、そういうことじゃなくて
木澤　いやいや、面目ない。この歳だと子供たちについていけなくってね
夫馬　やっぱり難しいですよね
木澤　子供たちの遊び相手はユウマくんに任せてしまっているんですよ。
申し訳ないとは思ってるんですが、どうにもねえ
ユウマ　気にしないでくださいよ。

ウィー　そうそう、ノープロブレーム！
母　いつもありがとうね。ナオ、あなたもぼーっとしてないでお茶くらい出しなさいな
ナオ　あ、はい。気づかなくてごめんなさい
夫馬　ああ、いいですよ、おかまいなく。すぐに出ますから
母　そう？　ナオ、あなたはお兄ちゃんを見習いなさい
ナオ　はい・・・
ユウマ　・・・じゃあ俺は何を見習えばいいんだろう
ウィー　僕だろ僕（ちゃちゃを入れる。ユウマ以外には聞こえない）
ナオ　おひさしぶりです
夫馬　ナオちゃんだったのか。こんにちは。大きくなったねえ。
いや、ちらっとしか見えなかったから、てっきりユウマくんの彼女かと思ったよ
ユウマ　いませんよそんなの
木澤　いつも家で子供の相手じゃあ、作る暇がないよなあ
ユウマ　あああ、その、僕はそういうのいりませんから
木澤　そんなことはないだろう、高校生なんだし
夫馬　木澤さん、そういう話し方が子供に嫌われるんですよー。
木澤　そうか、いや参ったな
夫馬　ナオちゃん元気にしてる？　施設からこっちに来て、もう十年になるんだっけ？
ナオ　はい、高校１年になりました
夫馬　そっかー、ナオちゃんも高校生なんだねー。しっかり勉強してる？
ナオ　あ、その
母　ナオ、今日の補習も学校行かなかったでしょ。先生から私に電話あったわよ。なにしてたの？
木澤　あら、それは
ナオ　ちょっと、気分が悪くて
母　だめよ、そんなことじゃ。木澤さん、お願いしたのに
木澤　いやその、行きたくないというのを無理に行かせるのも、ね。よくないですよ。
ほら、夏休みなんだし。
母　夏休みだからです！　成績ひどいんだから、補習授業にはちゃんと出ないと。
木澤さんが甘やかすから、ぼーっとした子になっちゃったんですよ
木澤　いやあ、ナオちゃんは優しい子ですから、勉強ができなくても
母　よくありません！
夫馬　まあまあ、ナオちゃんなら施設の職員になる道もありますし、大丈夫ですよ
母　それでも大学は出ておかないと。　先生から、進級あぶないって。
夫馬　あはは、それはちょっと問題だねえ。
ナオちゃん、白木さんのファミリーホームだからいいけどね、普通はすぐに就職なんだよ。
ナオ　はい、わかってる、ん、ですけど
夫馬　あなたは恵まれてる方なんだから、がんばるんだよー。
木澤さんも、しっかり監督してあげてください
木澤　はあ
夫馬　じゃ、私はこれで。（去る）

母　はい、おかまいもしませんで。お疲れ様です。
ナオ、高校卒業したらファミリーホームでは預かれなくなるんだからね。
高校生のうちに、将来のことを考えてしっかりしなさい
ナオ　うん。わかってるよ。
木澤　無理はしないようにな
母　木澤さん！　もう！
木澤　ああ、じゃあ私はそろそろ、これで・・・（去る）

## ■7場

父も帰宅。

父　ただいまー。
ユウマ　おかえり。父さん。
父　ユウマ、お友達が来てるぞ。
ユウマ　友達？
堀部　おじゃましまーす。
誠太郎　よ、ユウマ。
ユウマ　あれ？お前ら久しぶりー。どうしたの急に。
堀部　急にじゃねえよ、お前ケータイの電源入れてないだろ。
ユウマ　あ、ごめん。今日休みだし。
誠太郎　休みの日こそ、ケータイの電源は付けておくべきだろー。
堀部　（誠太郎に）お前もこの間「ケータイなくしたー」って騒いでたじゃん。
土橋　あー！だからあの時返信来なかったのか。
ユウマ　お前らのケータイ事情なんかどうでもいいんだよ。今日は何しに来たの？
誠太郎　あー、そうそう。連絡がつかねぇから直接来たんだよ。
堀部　ほら明日の花火。一緒に見に行こうって約束してたじゃん。
ユウマ　そうだったっけ。ごめん、すっかり忘れてた。
土橋　お前な。家の事ばかりで大変だろうから、親友の俺達が労ってやろうっていう話だろ。
ユウマ　なんだよそれ、そんな話どっからが出てきたんだよ。
ウィー　別に大変じゃないけどな、だって好きでやってんだもん。
ユウマ　うるさいよ。で、誰が来るの。
土橋　俺たち3人と、あとほら、アイさんたちも来たいって。
ユウマ　え、クラスの女子が来るの。
誠太郎　青春といえば恋だろ？　そのきっかけになれば良いかなーって。
ユウマ　お？　誠太郎、自信満々だねー。
誠太郎　まぁな！
土橋　な！　お前が来るならアイさんとこのグループも来るって言ってんだよ。頼むから来てくれよー。
ユウマ　はあ？　俺が来るなら？　なんだよそれ。

誠太郎　相変わらず鈍い奴だな、もうっ。
土橋　俺ら高校生じゃん？　しかも今夏休みだろ。だから熱く過ごそうよ熱く。
堀部　アイさんボランティアとか興味あるみたいでさ、お前ん家のこと話したら直接聞いてみたいって。いいチャンスだろ。
土橋　あやのさんとか、うたのさんも一緒に来てくれるって言ってるからさ。
ユウマ　俺を合コンのダシにするなよ…。あのさ、お前らは昔っからの友達だからいいけど、あんまりウチのコトぺらぺら喋らないでくれって頼んだだろ？
誠太郎　まぁまぁ、そんなささいなことはどうだっていいだろーが。なぁ？
堀部　そうそう、アイさん、お前の話聞きたがってたぞー。
ユウマ　…でもなぁ。
土橋　向こうにもお前が来るって言っちゃったし、来てくれないと俺らが困るんだよ。な？いいだろ？
ユウマ　えぇ…。
堀部　じゃあ、また明日な。
誠太郎　来いよ、絶対だからな！
土橋　よろしく〜！
ユウマ　待てよ、親とも相談しないと…って。
ウィー　だめだろ、明日は父さんも母さんも出かけちゃうからお前が子供の面倒みなきゃ
　そうだよな
ユウマ　そうだった！　おーい
母　あら、もう帰っちゃったの
ユウマ　うん。ねえ、母さん。明日の花火なんだけど、見に行ってもいいかな
しょう　花火⁉
ひな　いきたい！
秀　いきたい！
なのか　連れてってくれるの！
ユウマ　違うって。俺は友達に誘われて
母　（聞こえてない）あら、それならちょうどいいわね。みんなを連れて行ってあげてくれる？
ユウマ　そうじゃなくてさ
ナオ　すごい人混みだよ。はぐれて迷子になったら大変だよ
ウィー　心配いらないって。人混みは僕の大得意、ホームグラウンドだからね
ひな　お兄ちゃんならどこにいたってみつけてくれるもんねー
児童　ねーっ
母　頼めるかしら
ウィー　オッケーイ！
ユウマ　ちょっと待ってよ
ナオ　あの、お兄ちゃん。私が行くよ
ナオ　お兄ちゃん友達と一緒にいきたいんでしょう
ユウマ　そうだけど
ウィー　ナオじゃ無理だよ。お前人混み苦手だろう。子供たち連れて歩けないんじゃないか
母　あなたは明日も補習授業でしょう。ちゃんと行くのよ。帰ってきたら後から行けばいいから

ナオ　でも・・・
ウィー　まあまあ、いつも通り僕に任せておけって。よぉし、いくぞー！
児童　おーっ！

## ■8場

子供たちが勝手に走り出す。

児童　ぅわーい！
ゆうき　こっちこっちー、はーやーく！
ユウマ　こらーっ、勝手に行くなーっ
しょう　ねえねえねえ、たこ焼き食べたい！
ひな　焼きそばがいいー
なのか　私かき氷ー
秀　綿菓子ー！
ユウマ　わかったから俺から離れるな！　ああっもう・・・来るんじゃなかった・・・

堀部　あ、おーい！ゆうま！！
ユウマ　おー。遅かったな。
土橋　わりぃわりぃ、先に場所取りに行ってたんだよ。
誠太郎　真正面から花火が見られる超特等席だぞ！
ユウマ　そうだったのか、ありがとな。
土橋　そういえば、子ども達も来たんだな。
なのか　ユウマ兄ちゃん疲れたぁ～
秀　早く遊びたい～
しょう　僕ジバニャンのお面欲しい！
ひな　私コマさん！！！
ゆうき　僕ひょっとこ～（変顔しながら）
ユウマ　わかったから！　お面はみんなで1つな。相談して決めろ。
児童　え～！
アイ　たいへんだね、お兄ちゃんは
ユウマ　あ、アイさん。ごめんねー、せっかく誘ってくれたのに
アイ　ううん、私はひとりっこだから、大勢いて楽しいよ
ウィー　ほらほら、またどっかいっちゃうぞー。女の子といちゃいちゃしてる場合じゃないぞー
ユウマ　いちゃいちゃなんてしてねえよ！
アイ　ユウマ君？
ユウマ　ああいや、なんでも、ないんだ。ウィーリー、今日は俺一人でいいから。出てこないでくれよ
ウィー　本当にー？　お前一人でできるの？　・・・ふん、まあいいや。せいぜいがんばれよ

ひな、堀部のポケットからスマホを盗む。

ひな　とった～～！
堀部　ちょっ・・・、俺のケイタイ返せ！
ユウマ　こら！　人の物を取っちゃだめだろ？
児童　ごめんなさ～い。
ユウマ　ごめんな、うるさくて。
アイ　ううん、大丈夫だよ。
アヤノ　みんなユウマくんの弟や妹なの？
ユウマ　え？あぁ・・・まあ、そんなとこかな。
アヤノ　へぇ・・・大家族なんだね。
ユウマ　あ、いや、そーゆーわけじゃ・・・。
アイ　ねえ、これからどうする？
土橋　やっぱ輪投げだろ！
誠太郎　いーや、射的だな。
堀部　何言ってんだよ！　金魚すくいに決まってんだろ！
ウタノ　私お腹空いちゃった。クレープとか食べたいなぁ～。
男３人　・・・いいね～！！
アヤノ　私も食べたい！！
ウタノ　あ、でも今、金欠なんだよね。
堀部　俺奢るよ！
誠太郎　そんなんじゃ、女の子は落とせねぇよ。替われ。俺の諭吉達が君におごりたいってうずうずしてるんだ。
堀部　それ、英世だけどな。
土橋　だめだな、お前は。替われ。今頃天国は大騒ぎだろうな。だって、君という天使が降りてきちゃったから。
堀部　あーゆーのが許されるのはイケメンだけだよな。
ウタノ　土橋君、ありがとね。
土橋　うん♡
誠・堀　えーー！！

児童全　え～～～～！
なのか　土橋兄ちゃん・・・。
児童全　おえ～～！

堀部　あ、ごめん、なんか、変な物見せちゃって。
ユウマ　いや、こっちこそコイツらうるさくてごめんな。
アイ　楽しくていいじゃん。
堀部　気にすんなって。

誠太郎　じゃあ行くか！
土橋　まずはクレープだな。
ウタノ　やったぁ！　ウタノのクレープは、土橋くんがおごってくれるんだよね！
土橋　うん♡　２つでも３つでも♡
誠太郎　あいつら、バカップルだな。
全員　うん。
ゆうき　お兄ちゃん
ユウマ　どうした？
ゆうき　トイレ行きたい
ユウマ　あ～そっか。じゃあ、お兄ちゃんと行こっか・・・。
　ごめん、みんな、ちょっとトイレ行ってくる。ってことで、やっぱり、花火まで俺、別行動するよ。
誠太郎　そうか？
土橋　わりぃな、ユウマ。
ユウマ　がんばれよ。
土橋　おう！
アイ　あ、じゃあ、私ユウマくんと行く。子どもすきだし。
アヤノ　そうだね。じゃ、花火大会で待ち合わせね。
ユウマ　え、悪いよ・・・
アイ　行きたくて行くんだからいいよ。
ユウマ　でも、けっこー大変だよ？　みんなと行ってきなって。
アイ　でも私は・・・
ユウマ　そうしなって。
アイ　そ～じゃなくて・・・。
ユウマ　こいつらときたら・・・。
ウタノ　あ～！　だから！　女がイイって言ってんだから、いいの！　従えっつ～の！
アヤノ　ウタノ・・・。
ウタノ　分かった？
ユウマ　はあ・・・。
ウタノ　返事は？
ユウマ　はい。
ウタノ　よし！
堀部　あー、じゃあ、俺ユウマと一緒に行くわ。
ウタノ　はあ？
アヤノ　ちょっと、二人っきりにしてあげなよ。
堀部　でも、ほら、子ども達の面倒見るの大変だし。アイさんと二人だけだとこいつ世話ばっかで話すことも話せないだろ。
ウタノ　たしかに。
アヤノ　じゃあまたあとで、報告よろしく。
堀部　りょーかい。
ウタノ　じゃあ、行くよ！

土橋　はい。
アヤノ　じゃ～ね。
ウタノ　そこ！
誠太郎　はい！
ウタノ　ボヤッとしない！

児童　お兄ちゃん早く！！！！！漏らしちゃう！！
アイ　私ついてくよ。
ユウマ　でも・・
ナオ　おにいちゃん
ユウマ　あれ、ナオ。学校は今日は行ってきたんだろうな。
ナオ　う・・・ん、うーん。
ユウマ　どっちなんだよ。はっきりしろよな。
ナオ　ごめんなさい
アイ　妹さん？
ユウマ　そう。ナオ。あー、こっち、アイさん。クラスメイト。
ナオ　あ、初めまして。
ユウマ　よく俺達の事みつけられたな。人混みは苦手なくせに
ナオ　ううん、すぐわかったよ。
秀　お姉ちゃんウィーリーを探せ、苦手なのにねー
ひな　ねー
ゆうき　おしっこ・・・。そこでする。
ユウマ　わかったわかった。お兄ちゃんと行こう。
ナオ　あの、私がみんなを見てるから。お兄ちゃんは友達と回っておいでよ
ユウマ　そんなわけにいかないだろう
ナオ　大丈夫、みんな行こう。まずトイレからね。私が屋台で何か買ってあげる。
児童　やったー！
堀部　じゃあ俺もついていくよ。（連れ立って去る）

## ■9場

アイ　いいの、行かせちゃって
ユウマ　すぐにみつけられるよ、あいつら、やかましくて目立つから
アイ　あのさ、あの子達ってみんな、本当の妹や弟じゃないんだよね。さっきのナオちゃんも？
ユウマ　うん、俺も一人っ子だったんだ。みんな、施設の子たち。ウチで預かってるんだ
ユウマ　ファミリーホームっていって、そういう子たちを預かると国からお金が出るんだって。
うちは十年くらいまえからずっとそれやってるの。
アイ　そっか。あのね、私ボランティアとか行くの好きで、老人ホームとかに時々手伝いに行くんだよ

ユウマ　そうなんだ
アイ　ああいうのってさ、大変だけど、ありがとうって言ってもらえると嬉しいんだよね。
帰ってきた時に、ああ今日はいいことしたなーって。
ユウマ君とならそういう話ができるかなって思ったん・・・だけど。
ユウマ　毎日だとね。
アイ　うん、今日見てただけでもわかった。大変だよね。
ユウマ　子供の頃からだからね、もう慣れちゃったよ。っていうか、これがフツーになっちゃってさ
アイ　ねえ、ユウマくんもそういう仕事に就くの？　教育学部志望だったよね
ユウマ　あれ、そんなの話したことあったっけ
アイ　あ、うん、ごめん、それも堀部君から聞いたの
ユウマ　あいつは何から何まで・・・
アイ　ごめんね。でも、どうなのかな。
ユウマ　わかんない。教育学部には行くつもりでいるけど、本当に自分に合ってるのかどうか、まだわかんない
しさあ。親は期待してるみたいだけどね
アイ　でも、みんないい子たちだよ。ユウマ君が普段、いいお兄ちゃんをしてるのがわかった。
きっと向いてると思うな。その、私もできたら、一緒の大学に行けたらいいな、とか・・・
ユウマ　え
アイ　・・・あああ、何言ってるんだろう、私。ごめんね、学校でもあんまり話したこと無いのに、ごめんね
ユウマ　えーとその、もうすぐ花火も始まるから、行こうか
アイ　そうだねっ、みんなのとこに戻らないとねっ

堀部　（駆け込んできて）ユウマ！　ごめんユウマ、一人迷子になったみたいなんだ
ユウマ　ええ！　ナオはなにしてるんだよ
堀部　ナオちゃんもいなくなっちゃって。ナオちゃん探すって、勝手に走って行っちゃったんだよー
ユウマ　あのバカ。探そう（皆で駆け出していく）

## ■10場

群衆が散っていく。両親と児童。案内所の人に礼を言っている。

なのか　ふえええええ
父　ご迷惑をおかけしました
案内　いえいえ、ご家族が見つかってよかったですよ。
母　本当にありがとうございました。ほら、〇〇もちゃんとお礼を言って
なのか　うう、ありがどうございまじだ～
案内　この子、小さいのにおうちの電話番号ちゃんと言えて、偉いですね。
父　ありがとうございます。
案内　お父さんとお母さんとはぐれちゃダメだよ。
なのか　うん。

案内　じゃーねー。
なのか　ばいばーい。

そこにユウマ達登場。

母　まったく、もう・・・ユウマは何をしてたの！
ユウマ　ごめん、ちょっと目を離したら
なのか　お姉ちゃんがどっか行っちゃったのー
父　ナオ
ナオ　ごめんなさい、人混みで、気分が悪くなっちゃって
堀部　俺も悪いんです。ごめんなさい、小さな子の相手、慣れてなくて
ユウマ　お前はいいよ
アイ　私が悪いんです。その、ボランティアのこととか、ユウマくんに聞きたくて別行動してたから
母　あなたたちはいいのよ。ユウマにお願いしたんだから。
父　ユウマ。お前が見てくれるって言ったから、みんなで行くことになったんだろ。
ユウマ　うん、ごめん
母　責任を忘れないで。お兄ちゃんでしょう
ユウマ　わかってる、ごめんなさい

## ■11場

数日経って、また家にて。

ひな　ねえ、おにーちゃーん、遊んでよ～
ユウマ　ごめん、ちょっと後で
秀　あとっていつー
ユウマ　あとって言ったらあとでだよ
ナオ　ね、今日は私と遊ぼうよ
なのか　やだ、お兄ちゃんがいい
しょう　ナオ姉ちゃんじゃつまんなーい
ナオ　嘘つけ～
秀　ねえーお兄ちゃんてば
ユウマ　ごめん、今日はちょっと、だめなんだ
ゆうき　そう言ってなにもしてないじゃん
ナオ　お兄ちゃんは考え事してるから、たまには、ね
しょう　やだーっ
ひな　遊ぼうよ、ウィーリーの本出して
ユウマ　・・・わかったよ、いいよ、やろう。

児童　やったーっ！
ウィー　まったく、やっぱり俺がいないとダメなんだからよ
ユウマ　うるさいなあ
ナオ　ねえ、お兄ちゃん。この間の花火のこと、まだ、怒ってる
ウィー　（しれっと）怒ってないよー？
ユウマ　もういいよ
ナオ　よくないよ
秀　お姉ちゃん気にしすぎー
ひな　お兄ちゃんがいいって言ってるんだから、いいじゃない、ねえ
ウィー　な、その通りだッ！過ぎたことは忘れる！　父さんと母さんが言ったとおり、目を離したお兄ちゃんが悪かったんだからな。
ユウマ　ナオはそんなに気にしなくていいよ。
ナオ　うん・・・わかった。ごめんね。
ユウマ　だから謝るなって！
ナオ　あ・・・
しょウィー兄ちゃんなんか怖いよー
ナオ　やっぱり、今日は私がみんなのこと見てるから、お兄ちゃんは少し休んでよ
ウィー　だめだよー、お前にはまかせられなーい
母　（現れて）そーよ。ナオ。あなたは勉強しなさい。
父　結局補習授業さぼっちゃったんだから、先生たちカンカンだったぞ。
母　二学期からはしっかり学校行くのよ
ナオ　はい・・・
母　ユウマ、あなたもひとのこと言えないわよ。
ウィー　ぎく
母　夏休みに入って、ずっと子供たちの相手をしてくれてるのは助かるけど。
来年はあなた受験なんだからね。塾とか行かなくていい？
ウィー　大丈夫だよー、心配いりませんって。
ユウマ　俺は、いいよ。そんなの
母　行きたかったら月謝くらい出すわよ。それくらいはできるんだからね
ウィー　いらないいらない、僕がウチにいなかったらこいつらの相手誰がするんだよ
母　あなたの気持ちは嬉しいけど、お母さんもお父さんもいるんだから。
自分のことをしっかり考えなさい。
ユウマ　子供たちの面倒を見ろって言ったのは母さんたちじゃないか
母　ナオはいいから勉強しなさい。
ナオ　はい・・・
ウィー　僕のことは大丈夫だからさ。　よし、今日はなにして遊ぼうか。かくれんぼか
しょう　なんでもいいよー！（と一緒に遊びだす）
母　ちょっと、ユウマ！　待ちなさい
ウィー　なんだよー
ナオ　あのさ、お兄ちゃん無理してるよね

ユウマ　どうしてお前にそんなことがわかるんだよ
ナオ　わかるよ
母　ナオ、あなたは自分のことを考えなさい。早く部屋に行って。
ナオ　・・・お父さんもお母さんも・・・（言葉を飲み込んで、去る）
母　もウィー父さんからも何か言ってやってください
父　ナオには困ったもんだな。先生に電話でずいぶん叱られたよ
母　そうじゃなくて、今はユウマのことです。
父　学校の成績の方は心配ないんだろう。ユウマはしっかりしてるから安心だ
ユウマ　テストの点数しか見てないくせに
母　成績じゃなくて、受験のこと。勉強時間をとってあげないと
父　ああ。そうだな、ユウマがいてくれるからウチの子たちはみんな明るく過ごしてる。
でも、自分を犠牲にして他人のためにつくすってのは、よくないぞ。まずは自分だ。
ウィー　いやいやいや
ユウマ　父さんがいうのかよ。自分の子供を犠牲にして他の家の子供を預かってるあんたが
父　どうした、ユウマ？
ウィー　なんでもないよ。そんな大袈裟なことじゃないって、心配し過ぎだよ
父　まあ、受験勉強は大変だけどな、将来の仕事のためになる大学を選ばなきゃいけないだろう。
なにか考えてるのか
ユウマ　自分の仕事を継いで欲しいって顔しながら言わないでくれよ
ウィー　俺、教育学部行くからさ。どこの大学がいいか考えてるんだ。家から通えて、児童福祉に強いところ
父　そうか、じゃあお父さんも施設でちょっと聞いてみるからな。また相談しよう。
悩んでることがあったりしたらすぐに言うんだぞ。お前は他の子達のお手本だからな
ユウマ　聞く気もないくせに！
ウィー　わかってるよ、俺はお手本にならなきゃいけないんだろ
父　そうだ。ウチは普通の家じゃないからな。
ファミリーホームを開いたときから、お前はよくやってくれてるよ
母　本当にね。木澤さんにも助けてもらってるけど、ユウマがいなかったらやってこれなかった
ウィー　どういたしまして
父　さっきの大学の話もだけどな。ユウマがお父さんの仕事をわかってくれて嬉しいよ。
ウィー　尊敬してるからね。立派な仕事してるんだって自慢の家だよ
父　お前は自慢の息子だよ。
母　でも、行きたい学校とかあったら、遠慮なく言うのよ。遠くの大学でもいいんだし
ウィー　やだなあ、母さん。今自分で言ったじゃないか、僕がいなきゃだめだって。
僕はこの家が好きだから、家からは出ないよ。安心して。
父　わかった。これからも、頼むぞ、お兄ちゃん
ウィー　うん
父　じゃあ、もう遅いから寝なさい。おやすみ。
ウィー　おやすみ
ユウマ　待ってよ、俺の話を聞いてよ
ウィー　うるさいよ。

ユウマ　ちょっと待てよ。どうしてお前が父さんたちと話してるんだよ、ウィーリー！
ウィー　どうしてって、ずっとそうしてたじゃないか。気付いてなかったのお前だけだよ？
だってその方が話が早いだろう。・・・って、なにすんの
父　どうした
ユウマ　父さん。聞きたいことがあるんだ
父　なんだ？
ユウマ　今言ったのが全部ウソだ、っていったら、僕のことをどう思う？
母　ウソだって、何が？
ユウマ　全部。お父さんを尊敬してるっていうのも、福祉の仕事につきたいっていうのも
家族が好きっていうのも、全部ウソをついてきたって言ったら、どう思う
母　何を言ってるの、ユウマ。それがウソなら、本当はどうだっていうの
父　まあ、待ちなさい。　どうした、なにかあったのか？
ユウマ　なにもないよ。なにもないからそう思ったんだよ。
父さんも母さんも、ナオには怒るじゃないか。将来を考えろ、とか。
俺、何にも言われたことないなと思って
母　それは、ユウマがしっかりしてるからよ。何にも心配してないもの。
父　そうだ、ファミリーホームを開いてからずっと、本当によくやってきてくれたじゃないか
ユウマ　それは全部、本当の僕じゃなかったら？
母　・・・？　どういうこと？
ユウマ　僕は
ウィー　ホントは全部いやいややってましたー、いい子のフリをしてただけでーす
ユウマ　だまれよ！
ウィー　なんだよ、そう言いたいんだろ。言えよ。いつもみたいに代わりに言ってやろうか？
ユウマ　いい。自分で言う。
ウィー　僕が本当は子供なんか嫌いで、父さんも母さんも嫌いで、この家になんかいたくないって、
言えよほら！
ユウマ　・・・。僕は、
父　なんだ？
ウィー　いくじなし。そう言って嫌われるのが怖いんだろう。
ユウマ　ちょっとウィーリーと遊んでくるから、すぐ帰るよー
父母　・・・ウィーリー？

## ■12場

雑踏の中、人混みを縫うようにしてすいすいと歩くウィーリー。
人にぶつかりながら追うユウマ。
ユウマが叫ぶと、ユウマとウィーリーの二人以外ストップモーションに

ユウマ　ウィーリー！
ウィー　なにかな、ユウマくん？
ユウマ　父さんたちと勝手にしゃべるな
ウィー　どうしてだい。僕はユウマくんの理想の姿だろう。
ユウマ　お前が？
ウィー　いつもいつも、１０年前からそうしてきたじゃないか。
言うことを聞かない子供の相手、都合よく自分の勝手を押し付けてくる親の相手、
そういうめんどくさいことをうまくこなす、理想のユウマくん。それが僕。
「いつも明るく朗らかで・みんなに好かれる・頼りになるお兄ちゃん」
「父さんと母さんの期待通りの・自慢の息子」それが僕だ。
お前には僕がウィーリーかもしれないけれど、周りからは僕がユウマなんだよ。
わかった？
ユウマ　違ウィー前は僕が想像したただの幻だ
ウィー　理想の幻だろ。お前にはなにもないんだよ。だから俺がかわりにやってやる。
お前もそれで不満はないだろ？
ユウマ　あるよ！
ウィー　じゃあお前はなにがしたいんだ。俺がやることが不満なら、どうするんだ？
自分で子供の相手をして、親の期待を背負って、理想の重さで潰れるだけだろ。
やめとけよ。
ユウマ　もういいよ、俺のことは放っといてくれよ
ウィー　じゃあ子供たちも放っておくのかい？　父さんも母さんもナオも？
わかるだろ、僕がいなきゃお前はだめなんだよ。全部僕に任せておけよ。
誰もお前の本音なんか気付いてないし、気にしてないんだからさ。
お前が気にしなけりゃ万事解決なんだ。
ユウマ　だれも・・・
ウィー　じゃあ、そろそろ帰ろうぜ。母さんたちが心配するだろ。
帰って子供たちを寝かしつけて、父さんと母さんの機嫌をとって、勉強して。大変大変。
お前がいなくなればちょっとは余裕ができるかな。いやあよかったよかった
ユウマ　ふざけるなよ、俺にだってやりたいことがあるんだよ！
遊びにだって行きたいし、クラスの他の奴らみたいに自由に将来選びたいし、それに
ウィー　くっだらないなあ。でも、ああ、この間の女の子は可愛かったよね、アイさん。
ボランティアが好きって言ってたし。あの子にも、俺が理想の彼氏になってやろうか
ユウマ　やめろよ！
ウィー　お前には任せておけないんだよ。
理想の自分の活躍を隅っこから見てろよ。その他大勢に混ざって、な

ウィーリーが指をならすと、群衆がユウマを取り囲む。

ユウマ　待ってくれよ
ウィー　邪魔するなよ

ユウマ　誰も僕を見てくれないのかよ。
誰か・・・誰か僕をみつけてくれよ！

電話が鳴る。すると、群衆の動きが止まる。ユウマ、ようやく群衆から抜け出すことができる。電話をとるユウマ。

ナオ　お兄ちゃん？
ユウマ　ナオ、か
ナオ　どこに行ったの？　みんな心配してるよ
ユウマ　みんなって誰だよ。父さんも母さんも、俺がいなくたって気にしないよ
ナオ　してるよ！
ユウマ　…。
ナオ　ねえ、お兄ちゃん？　話してるの、お兄ちゃんだよね
ユウマ　そうだよ。
ナオ　帰ってきてよ。この間から様子が変だよ
ユウマ　お前に何がわかるんだよ、何も知らないくせに・・・
ナオ　わかるよ！　十年も一緒にいるんだから、わかるよ。
ユウマ　…。
ナオ　ずっと私の面倒を見てくれたお兄ちゃんだもん。いつも甘えてばっかりだけど、つらい時くらい、…たまには、私にも頼ってよ。家族、なんだから。
ユウマ　お前には…
ナオ　お兄ちゃんには、私は家族じゃないかもしれないけど
ユウマ　そんなこと言ってないよ！
ナオ　…覚えてる？　私がウチに来てすぐ、ウィーリーの本にしるしをつけちゃった時
ユウマ　ああ。
ナオ　お兄ちゃんは泣いて怒って。すごく怖かったけど。
その後、逃げ出した私を公園まで探しに来てくれたでしょう。
ユウマ　覚えてる。
ナオ　あの日からずっと、私のお兄ちゃんは、お兄ちゃんなんだよ。
無理して私達のためになんてしてくれなくていいよ。
ユウマ　…ありがとう。
ナオ　お父さんもお母さんも、心配して探しに出て行ったよ。
ユウマ　父さんたちが？

ユウマを探しにきた父母、登場。

母　ユウマ？　よかった、遠くに行って無くて。何もおかしなことしてない？
父　さっき様子がおかしかっただろう。あんまり母さんに心配させるんじゃない
ナオ　会えた？
ユウマ　ああ。

ナオ　どこにいるの、私も迎えに行くから
ユウマ　家のすぐ側の、あの公園だよ。
ナオ　わかった。

父　電話は、ナオか？
ユウマ　うん。心配してくれてた。
母　それは心配するわよ。さっきみたいに、わけのわからないことを言い出したら

ユウマ　僕には、父さんと母さんが、わからない。
どうして僕がいるのに、他の子を家に預かったりしたのか。
どうしたら僕を見てくれるのか。
母　それは
ユウマ　だからずっと、僕が思った理想のお兄ちゃんをやってきたよ。
そうしたらほめてもらえるだろうって。そうじゃなきゃいけないんだって。
それなのに、それでも僕のことを見てくれない父さんたちが、ずっと嫌いだった。
父母　・・・！
ユウマ　この間の花火の日は、俺のことを叱ったじゃないか。
なにしてたんだ、お兄ちゃんだろしっかりしろって。
俺だって友達と遊びに行きたいよ、いつもいつも弟たちの面倒見てられないよ。
いつもいいお兄ちゃんやってられないよ。
母　ユウマ、・・・ごめんなさい、あの日のこと気にしてたのね。

ナオが来るが、様子を見て静かに話を聞いている。

父　ああ、お父さんも、言い過ぎたと思ってたんだ。すまなかった
ユウマ　ねえ、父さん。なんでファミリーホームを開いたの。
父　それは
ナオ　家族のいない私たちに、帰る家を作ってくれたんだよね。でもそのせいで、お兄ちゃんの家をとっちゃったんだよね。お兄ちゃんの笑顔はいつも空っぽで、すっごく寂しそうで、本当の家族じゃないんだ、ウソの家族なんだって、申し訳なくて、つらかった。
ウソの家族なんてやめて、お兄ちゃんに家を返してあげたくなって！
母　ナオ
ナオ　教えて。私達が、かわいそうだったから？
父　そうじゃない。　そうじゃないんだ。
ユウマ　じゃあなんでだよ！
母　ユウマ。小さい時のこと、覚えてる？
家で施設の子を預かるようになってすぐの頃、お父さんがあなたに聞かれたの。
「うちはどうなるんだ」「この子たちは家族なのか」って。
ユウマ　言った。覚えてる。
ナオ　あのときだ。

※ウィーリーがしるしをつけられた時の回想と交錯。
逃げ出してしまった幼ナオがたたずんでいる。探しに来た幼兄に、父が合流。

母　お父さんがなんて答えたかも、覚えてる？
ユウマ　家に帰ったときに、おかえりなさいって言ってくれる人がいるところが家なんだって。
そう言える相手が、家族なんだって。

父　（幼兄に）お父さんとお母さんには、お前が言ってくれる。
施設で他の子の相手をしていても、お前が待ってくれてる家が、父さんたちの帰る家なんだ。
でも、父さんも母さんも帰りが遅いから、ユウマが家に帰った時におかえりって言ってくれる
人がいないだろう？
幼兄　うん。ただいまって言っても誰もいないと寂しい
ウィー　だから俺と遊んでたんだよな
父　な。だから、ユウマのために家族をたくさん増やそうと思ったんだ。
ホームを開けば、お母さんはいつも家にいられるし、ね。
今は、うるさくて面倒かもしれないけど、寂しくないだろう
幼兄　・・・わかった、僕、もう妹や弟に怒ったりしない。
ウ&幼兄　僕、いいお兄ちゃんになるよ！
父　ありがとう。じゃ、お兄ちゃん。妹のナオを迎えに行こう
ウ&幼兄　うん。・・・ナオ。さっきはどなってごめん。帰ろ。
お母さんが晩御飯作って、待ってるよ
幼ナオ　いいの？
ウィー　うん。御飯のあとでお兄ちゃんが一緒に遊んであげるよ
父　夜更かしはだめだぞ。みんな待ってる。さあ、帰ろう
幼ナオ　うん！

父が幼ナオの手をとる。立ち上がる幼ナオ。幼ナオのもう一方の手をとるウィーリー。
取り残される幼兄。妹は幼兄を振り返る。

母　あの日からずっと、ユウマはいいお兄ちゃんをしてきてくれたけど
妹　私のせいだ。お兄ちゃんが苦しんでたのは
ユウマ　いいんだ。僕が自分でそうしたんだから
ウソの僕でも、ナオと家族になりたいと思ったんだ。
母　ユウマ、ナオ。あなたたちはふたりとも、私の大事な大事な家族なのよ。
だから、お願い。ウソだなんて、言わないで。
兄妹　お母さん・・・
父　お父さんもお母さんも、ナオや他の子たちがかわいそうだから、世話をしてるんじゃないんだ。
お前たちに幸せになってほしいから、ホームをひらいて家族になったんだよ。
それがお父さんたちの、幸せなんだ。ユウマ、これで、答えになってるか

ユウマ　・・・ありがと。すっきりした。
父　お前は自分がやりたい仕事について、なりたい自分になればいい。
でも、ここがお前の帰ってくる家だからな。
ユウマ　うん。ずっと迷子になってたのは、俺だったんだ。

片隅でたたずんでいた幼兄に、手を差し出す幼ナオ。

幼兄・ユ　ただいま。
父母　おかえり。
ナオ　おかえり、おにいちゃん。

ウィーリー突然登場。

ウィー　おっかえりぃ！　勘違いするなよ。この家にはお前の居場所はないんだよ
ユウマ　あるよ。お前に取られてただけだ
ウィー　自分でできないから俺が代わってやってたんだろ。
俺がいなかったら何もできないくせに。お前にはもう用はないんだよ
ユウマ　お前になくても俺にはあるんだよ！（胸倉をつかみ上げる）
ウィー　お、とととと
ユウマ　俺の・家族を・返せ！　（殴り倒す）
ウィー　ふん、いいよ、返してやるよ。
それで？　本当のお前は何になりたいんだ。どう、したいんだ？

ウィーリーが指を鳴らすと、群衆がやってくる。
群衆の理想的なユウマを求める声。

ユウマ　僕は、・・・僕は・・・。

ユウマ、群衆の声に、存在がかき消されるよう。

ナオ　お兄ちゃん
ユウマ　ナオ
ナオ　みつけた
父　本当のお前は何になりたいんだ。
母　ユウマ
ユウマ　僕は、僕はウィーリーになりたい。他の誰かのためじゃなくって。
ウィーリーは見つけてもらうために、旅をしてるんじゃないんだ。
僕が旅するのを、みんなが追っかけて探したくなるような。そんな人に、僕はなりたい。
ウィー　そっか。やっと見つかったか。　いやーずいぶんかかったよなー。俺もずっと待ってたんだよー、

こう、そっちのページにはいないんですよー、こっちこっち、ここここ！（ユウマを示し）
ここにいるんですよー！　気付いてクダサーイ！って、・・・ね。
・・・お前なら、なれるよ。

ウィーリー、ユウマに帽子を渡す。

ユウマ　（ウィーリーに）ありがとう。
（父と母に）父さん、母さん。進路のこと、もう少し考えてもいいかな？
自分のこと、ホームのこと、ナオや、あいつらのこと、もっと考えて決めたいんだ。
ここが僕の家、僕の居場所だから。

うなずく三人。

全員　みいつけた！

BGMが高まり、幕。